

Title	ごあいさつ
Author(s)	松本, 圭史
Citation	癌と人. 28 P.1-P.1
Issue Date	2001-03-31
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/23854">http://hdl.handle.net/11094/23854</a>
DOI	
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

## ご あ い さ つ

理事長 松 本 圭 史\*

皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は本財団の事業及び運営につきまして格段のご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、この場をお借りいたしましてこのたびは本財団の設立の経緯とその後の活動について少しご説明したいと思います。

そもそも本財団の設立は、昭和10年9月「癌の治療及び予防に関する研究奨励と癌の撲滅を図ること」を目的として、大阪の財界をはじめ有志の方々の熱意とご支援により「大阪癌治療研究会」が設立されました。その後、昭和39年2月、「財団法人 大阪癌研究会」と名称を改め現在に至っています。

ここに、現在までに本財団が行ってきた事業をかいつまんでご説明いたします。

まず、昭和10年設立当時は、ラジウムによる癌の治療研究とラジウムにより作成されたラドン治療用に供し当時としては多大な成果を上げました。(昭和39年に終了)

昭和39年の改組とともに、癌の基礎及び治療の研究助成と学術講演会を主たる事業とするとともに癌に関する知識の啓蒙につとめてきました。

昭和43年、大阪大学微生物病研究所附属病院の協力を得て乳癌と大腸癌の集団検診を実施し、癌の早期発見に大いなる成果をあげました。(平成5年終了)

昭和48年より本財団の会誌「癌と人」を年1回刊行し、広く一般に配布し癌の知識の普及活動に鋭意努力してきました。現在第28号の刊行に至っています。

昭和61年、癌に関する一般学術研究助成事業を開始し全国の癌研究機関から募集した基礎面及び臨床面の研究助成申請に厳正なる審査を行い、これらの優秀なる研究を積極的に助成することにより、現在も癌研究に着々とした成果を上げつつあります。

平成9年、「癌シンポジウム・講演会助成費」を新設し、癌に関するシンポジウム、研究会、会議及び講演会等にその開催費の一部を助成しています。

現在、癌は我が国の死亡原因の第一位を占め三人に一人は癌で亡くなっているといわれています。いまや、癌は人類最大の敵であり、癌の征圧は全人類の悲願であると申さねばなりません。しかし、最近の癌の診断及び治療に関する医療技術の進歩は目覚ましく癌は治る病気となりつつあります。これには、早期発見、早期治療が必須のこととなります。

よって、これからも前述の各事業を通じて癌医学の発展に貢献し癌の撲滅に向かって本財団の社会的使命を果たしたいと存じます。

今後とも本財団の健全な運営に各事業の発展に格段のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

---

\* (財)大阪癌研究会理事長 大阪大学名誉教授